

## 第2回野洲駅南口周辺整備構想検討委員会結果報告について

### 1. 開催日時等

平成24年9月10日(月) 午後2時00分～4時00分 於：コミュニティセンターきたの大ホール

### 2. 委員等

<出席委員(18名全員)>

50音順

1号委員(学識経験者)	及川 清昭 委員	松岡 拓公雄 委員長	
2号委員(関係機関・団体を代表する者)	太田 正己 委員	鍛冶 平太郎 委員	鈴木 あつ子 委員
	立入 誠悟 委員	中田 幸子 副委員長	間宮 美佐緒 委員
	森野 百代 委員	山本 真嗣 委員	
3号委員(行政機関)	小川 文章 委員	谷村 定義 委員	橋 俊明 委員
4号委員(公募)	兒玉 志織 委員	前田 基良 委員	西村 昇 委員
5号委員(市長が認める者)	樋口 俊助 委員	平野 剛 委員	

<傍聴者>

10名

<報道機関>

1社

### 3. 議事等

#### 1) 駅前に必要な機能とゾーニングの検討

##### ① 質疑

A  
委員

・野洲文化ホールや野洲幼稚園といった既存施設との関係は

→市有地を中心とした35,000㎡の対象区域に何が必要かを議論いただいて構想をまとめることから、自由な発想で議論を願う。

##### ② 意見 ○市民はどんなまちづくりを望むのか

○駅前に求められる都市機能とは

○どのような機能を市民活動拠点とするのか

B  
委員

- ・駅南北を地下道でつなぐといった一体感あるまちづくりが必要。
- ・公立病院の立地については、対象区域では占める割合が大きく区域外が良い。
- ・現在の対象区域は市有地を中心としたものだが、さらに周辺民有地を含め広がりのある区域設定を考えてみることも必要。

A  
委員

- ・駅南北の往来ができるような仕組みを作ることができればまちの活性化につながる。
- ・バスなどの地域の公共交通体系は駅を中心に作られており、高齢者人口が増えていく中で、駅前に医療機能があることは利便性が高い。
- ・健康に着眼した機能設定は必要で、そこに商業機能を複合化することが望ましい。

C  
委員

- ・少子高齢化社会においては、高齢者への視点とともに若者や子どもが集まるような仕掛けが必要。
- ・駅前空間の利用を考えた場合に、平日は日常的に利用する空間、休日は家族が憩うための空間のように色分けの着眼が必要。

D 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駅から歩いていけるという利点を活かし、駅からの連続性を持ちながら一定レベルのサービスを提供することでにぎわいが創造できる。</li> <li>・ 駅ロータリーには送迎等の最低限の自動車交通は必要だが、今回の対象区域を自動車と分離した歩行者空間として位置づけられるのであれば、区域内に必要とされる駐車場の考え方も変わる。</li> <li>・ 多目的に利用できるオープンスペースとその周辺に複合施設がある空間形成が良い。</li> <li>・ 市単独で、求められる全ての機能を持つのではなく、近隣市との機能分担についても考える必要がある。</li> </ul>
E 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 構想を考えていく中で、利用者のターゲットを明確にすることで求めるものがはっきりとする。</li> <li>・ 駅前ならば何ができるのかについて着眼すると、SOHOビジネス（※）のように駅前の特性を生かした上で、ビジネスチャンスの発信が可能。 ※SOHO (Small Office/Home Office) 会社と自宅や郊外の小さな事務所をコンピュータネットワークで結んで、仕事場にしたもの。あるいは、コンピュータネットワークを活用して自宅や小さな事務所です事業を起こすこと。</li> <li>・ 緑地については必要であるが、屋上公園のような仕組みも考えることができる。</li> </ul>
F 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ マイカー普及率の高まりとともに郊外における大規模商業施設の立地を代表とするような市街地の開発が進んできたが、移動困難者の増加が想定できる社会の中では、移動手段と一体となったコンパクトシティ化への流れが必要。</li> <li>・ 直近の課題でもあるエネルギー問題を考えたときに、自前で電気を調達できるような取り組みが可能であれば特徴的である。</li> </ul>
G 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人は、自身が求める場所、あるいは行く必要のある場所には自ら移動する。求める場所とは憩える空間といった心に響く場所であり、必要のある場所とは市役所や病院のように生活に欠かせない場所である。必要のある場所には、その立地場所に関係なく移動するので、生活に欠かせない機能をあえて駅前に配置しなくても良いのではないか。</li> </ul>
H 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駅前を中心に考えたとしても、大都市でイメージするような機能集積は困難であるので、便利さだけにとらわれてはいけない。</li> </ul>
I 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市内の一等地である駅前に病院を立地することには疑問の声が上がっている。</li> <li>・ 市内の企業には国内外から来訪者があり、駅から各事業所への流れはあるが、駅周辺において来訪者を迎える体制が不十分。</li> <li>・ 駅というターミナル機能を活用し、駅周辺に行けば利用可能なサービスを明確に打ち出すことで駅周辺と郊外との機能分担が可能となり、その中で様々な機能の発信拠点とすることで企業活動に結びついていく。</li> </ul>
J 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長期的な視野で駅南北を一体利用するための計画はあるが実現には課題が多い。</li> <li>・ 既存道路にとらわれずに考えていただくことで、構想検討の可能性も広がり、しいては対象区域隣接の民有地への起爆剤として期待できる。</li> <li>・ 公園をはじめとした緑地の配置が特にポイントになると考える。</li> </ul>
K 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 野洲駅前でしか買えない、受けられないサービスといった特徴が必要であり、近隣にない個性につながる。</li> <li>・ 竜王アウトレット利用者向けのバスはあるものの、相乗効果を生み出す仕掛けがないことから、駅周辺単独で完結してしまうのではなく、プラスαが生まれる仕組みが必要。</li> </ul>
L 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 持続性のある市民サービスを考えたときに、野洲市における一等地であることを鑑み、一定の受益者負担の仕組みが必要。</li> <li>・ 維持管理が高額であれば持続することは困難であるから、運営面での視点も加えるべき。</li> <li>・ 一つの用途でしか利用できないものではなく多機能性のある空間であれば、時代に応じて可変することで持続性や成長する駅前という考え方にもつながる。</li> </ul>

M  
委員

- ・駅前整備をはじめとするまちづくり交付金等は、事後評価を重視していることから、持続的な利用空間や市としてインパクトある取り組みが必要。
- ・全国の事例から商業機能を考えたときに、超過供給となる事例もあることから、市全体で共存共栄の視点が必要。
- ・鉄道利用者に下車してもらえるような仕組みづくりにより、市内外を含んだ経済的な循環が可能。

N  
委員

- ・滋賀県という位置から野洲市を考えたときに、魅力である希望が丘文化公園の存在と新快速電車の始発・終着駅ということを活かすべき。

O  
委員

- ・商圈を考えると野洲市の駅前で商業機能を核とすることは危険であり、商業機能の配置をずらしても、身の丈にあった複合的な視野でしか困難。
- ・にぎわい創造には人がいることが前提で、野洲駅前という特性を考慮すると一定の居住エリアは仕方がない。
- ・人口減少社会において、住みやすいまちだけが生き残ることができ、利便性の高い駅前において、予防から治療までを想定する健康機能の配置は重要で、健康福祉から発展し、幸福都市として位置付けができるならば、特徴的な駅前整備となる。
- ・駅前が一等地だから配置する機能によってはもったいないという考え方があるが、大都市の駅前は商業的な位置付けが多く、高額な取引が駅前空間でされている。野洲市では駅前を市民が使い、市民が一番の贅沢をできるチャンスとなっている。
- ・ホール機能については駅前に必要であるのか、市民が求めるホール像はどのようなものなのかについて議論が必要。

副  
委員長

- ・推計では平成32年には4人に1人が65歳以上となり、かつ、核家族が増えている中で、どのように移手段の確保をしていくのかが課題になり、一定のサービスを楽しむように機能集約が必要。
- ・少子高齢化が進む中で、子どもを安心して生み育てることのできる環境づくりや高齢者が抱える課題への対応など、子どもと高齢者への視点を重視すべき。

委員  
長

- ・委員の意見をまとめると、①多世代が時間を消費・共有できる空間により、コミュニケーションが生まれ地域づくりにつながる。②人が集まることでの様々な可能性が広がり、駅前だけでなく郊外や市外とのつながりもできる。③機能的には一つに縛られるのではなく時間とともに可変できる仕組みが必要で、要望の多い商業機能は複合的な要素での位置付けが望ましい、と言える。
- ・駅からの連続性や緑の見せ方については技術的なことで解決できるが、特に緑は駅から見えることも重要。
- ・駅前の核としてはホールや病院も成り立つが、老若男女が利用する空間をどう考えるのかが必要。

### <傍聴者から>

- ・健康機能の位置付けは良いが、市立病院の必要性はない。
- ・少子高齢化とならないような仕掛けが必要。
- ・駅前であるから資産活用としての考え方もすべき。
- ・他の市民サービスをカットせざるを得ないような状況になるのではと懸念がある。
- ・市民の思いを反映し、順にステップアップをしていただきたい。

多世代が憩える空間作りの中でも特に少子高齢化社会において子育てと高齢者に対する視点の必要性、駅前という利便性の高い立地における機能分担、駅前の特性から考えられる可能性などの意見が交わされました。今後どのような駅前空間が必要とされるのか、位置的な要素や機能の複合化を視野に加え、更なる議論を進めます。

## 2) その他

○今後のスケジュール

第3回検討委員会については委員長・事務局協議の上、決定。